

2026年1月1日  
89号

# かけはし

ひたちなか総合病院広報誌

発行所 株式会社日立製作所ひたちなか総合病院  
〒312-0057  
ひたちなか市石川町20番1  
TEL 029(354)5111  
発行人 渡辺明宏  
編集 広報委員会  
<http://www.hitachi.co.jp/hospital/hitachinaka/index.html>  
※バックナンバーは当院ホームページに掲載しております。

## 新年のご挨拶

院長 吉井 慎一



新年明けましておめでとうございます。寒さと乾燥が厳しくなるこの時期は、インフルエンザや風邪が流行しやすくなります。うが

い・手洗い・十分な睡眠を心がけ、加湿や室内の換気にも気を付けましょう。

近年テレビ・SNSなどで、「病院経営の悪化」が取り上げられており、全国共通の問題として、物価高騰や人件費上昇が挙げられますが、地域や病院の規模によって事情はさまざまです。人口減少が進んでいる地域では、そもそも患者さんが減少していきます。また、医療従事者も減少し、医師だけでなく人財不足が深刻化することが懸念されます。その結果、地域に病院がなくなることが生じ、今後病院統合もさらに加速する可能性があります。大学病院や規模の大きい公立・公的病院では、高度な医療や赤字の診療科を維持するためのコストが大きく、地域によっては自治体の資金が枯渇する事態が生じています。政府では2026年度診療報酬改定について議論されており、今後患者さんの自己負担が増える可能性も指摘されています。

当院は急性期医療の専門性を磨きつつ、地域

全体の医療供給体制の中で、その役割を維持してきました。以前から、「高回転・高稼働・多機能型モデル」を目標に、救急医療と専門性の高い医療の両立をめざしてきました。また、近隣病院、診療所や介護施設との役割分担を明確にし、患者さんが切れ目なく医療・介護を受けられる体制構築に努めてきました。当院の訪問診療・訪問看護は、2026年3月をもって閉鎖しますが、地域に増えてきた訪問ステーション、在宅診療医師にお任せし、当院は高度医療が必要な時に受け入れられる体制を維持します。

当院で外来・入院診療を受けている患者さんで、訪問診療・訪問看護を希望するとき、または在宅での不安などに対しては、いつでもご相談に応じ、地域の医療施設・介護施設への紹介を行います。

当院の使命は、「地域を護る病院」です。医療の質と安全を徹底し、患者さんと家族に安心していただける医療を提供し続けることが最優先です。一方で、ICTの活用や業務効率化を進め、限られた資源を最大限に活かすことも重要になります。また、従業員が誇りをもって働ける環境を整え、次世代の医療人財を育てることも重要です。その為には、地域の皆様のこれまで以上のご理解、ご協力が必要となります。

最後になりますが、皆様方、ご家族のご健勝とご活躍を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

## ひたちなか総合病院・総合健診センター休日のお知らせ

1月							2月							3月									
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土			
					①	②	③						⑦							⑦			
1	④	5	6	7	8	9	⑩	2	⑧	9	⑩	⑪	12	13	⑭	3	⑧	9	10	11	12	13	⑭
月	⑪	⑫	13	14	15	16	⑬	月	⑮	16	17	18	19	20	⑮	月	⑮	16	17	18	19	⑯	⑰
	⑱	19	20	21	22	23	⑲		⑳	23	24	25	26	27	㉑		㉒	23	24	25	26	27	㉓
	㉔	26	27	28	29	30	㉕										㉔	30	31				

■はひたちなか総合病院休日 ○は総合健診センター休日



## 消化器外科 保医師

私は、2019年4月株式会社日立製作所ひたちなか総合病院に入職し、消化器外科、乳腺外科の患者を担当しています。これまで外科専門医、がん治療認定医の資格を持っていましたが、当院に赴任してから、消化器外科専門医、乳腺認定医、日本DMAT隊員などの資格を新たに取得させていただきました。

手術、抗がん剤などの薬物治療、終末期医療など多岐にわたる複雑な大量の仕事を自分だけの力ではやり切ることはできません。同僚の医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、メディカルクラーク、事務など多くの病院スタッフの力添えに支えられながら仕事が成り立っています。

働き方改革などで生活のオン、オフもきっちり分けています。長年続けている剣道や映画鑑賞などの時間もとれ、ストレス発散やリフレッシュができています。

今年は劇場版アニメ「ひゃくえむ」が個人的にバズりました。短距離走で国内第一人者の選手が母校の講演で、100mのタイムが伸び悩んでいる生徒にかけたアドバイスがこちら。

「人生は常に失う可能性に満ちている そこに命の醍醐味がある 恐怖は不快ではない 安全は愉快ではない 不安とは君自身が君を試すときの感情だ 栄光を前に対価を差し出さなきゃならない時 ちっぽけな細胞の寄せ集め一人 人生なんてくれてやれ」

私も現在、剣道八段に挑戦中。合格率1%未満の高い壁をのり越えるには、我が人生をくれてやるしかないのか・・・

2025年12月より保医師による乳腺外来が開始になりました

診察日：第2・4月曜日（午後）完全予約制

予約方法は当院ホームページ  
地域医療連携室をご覧ください。



40年前



右保医師：剣道八段に挑戦中



20年前



## 医療福祉・がん相談室

患者総合支援センター医療福祉・がん相談室は、緩和ケア認定看護師・公認心理師・医療ソーシャルワーカーと多職種で成り立っています。そのため、医療生活に伴う経済・心理・社会的な支援に関する相談の他、がん医療に関する治療・アピランス・病気と仕事の両立なども含めた対応をそれぞれの職種を活かして行うことができます。特にがんについては、がん相談支援センターとして、地域のがん患者の利用も可能となっております。

今後も部署メンバー協働で、患者さんとご家族に寄り添いながら支援していきますので、ぜひお声かけください。お待ちしております。



医療福祉・がん相談室スタッフ

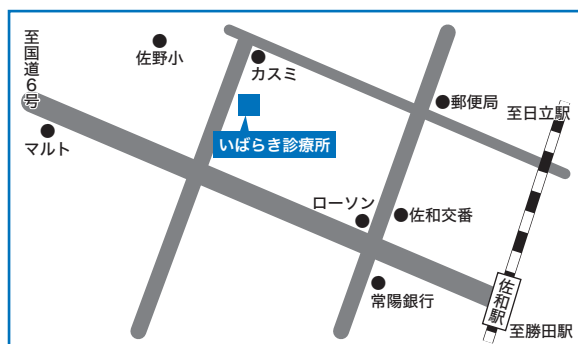
## 地域の先生紹介

### いばらき診療所

当院は1996年に開業して以来、今年で30周年を迎えます。これもひとえに皆様のご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

「ずーっとお家で暮らしたいを応援します」をモットーにどんなに病気や障害が重くても、思い出の詰まったご自宅や親しんだ地域の中で暮らしたいという想いの実現に向けて、ご自宅や入所施設まで伺い訪問診療を行っております。24時間×365日体制で往診対応や入院先の手配、ご希望に応じてお看取りまでさせていただきます。

そのために地域の医療機関や市内全域の訪問看護ステーション、ケアプランセンター、介護事業所などのネットワークを駆使し、密接に連携、協力を取りながら、安心して療養できますようチームでサポートしています。これからも地域の皆様に信頼される医療をめざして日々研鑽を重ねて参りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



※掲載されている写真については、同意を得て掲載しております。



左：田中医師 中央：小林医師 右：廣田院長

## 医療連携に関するお問い合わせは地域医療連携室へ

8：15～16：30（月曜日～金曜日）

TEL 029-354-5202（直通）

FAX 029-354-5220（直通）

## 血液型について

血液型とは、血液中の赤血球の表面にある「抗原」という物質の違いによって分けられる分類のことです。A型の方はA型抗原を、B型の方はB型抗原を持ち、AB型の方は両方を、O型の方はどちらの抗原も持っていません。血中には自分が持っていない抗原に対する抗体があり、異なる血液型の血液を輸血すると血液が固まる反応が起こるため、輸血では血液型の一致がとても重要です。

日本人の血液型の割合は、A型約40%、O型約30%、B型約20%、AB型約10%とされています。また、日本人の約99%はRh陽性で、Rh陰性の方はごく少数です。妊娠や輸血の際には、このRh型の確認も欠かせません。

血液型は人だけでなく動物にも存在します。犬には10種類以上の血液型があり、猫にはA型・B型・AB型の3種類があります。また、ゴリラにも血液型があり、ニシローランドゴリラはすべてB型ですが、他のマウンテンゴリラなどでは異なる血液型が確認されています。さらに、馬の血液

臨床検査技師 沼波 亮一  
型は非常に複雑で、理論上およそ3兆通りもの血液型が存在するといわれています。

また、「血液型によって蚊に刺されやすい」と言われることがあります。研究の一部では、O型の方が他の血液型より刺されやすい傾向が報告されていますが、体温や汗、呼気中の二酸化炭素なども関係しており、血液型だけで決まるわけではありません。

近年では、「血液型で性格が決まる」といった思い込みから生じるブラッドタイプ・ハラスメント（血液型ハラスメント）が問題視されています。「A型は几帳面」「B型はわがまま」などの偏見で人を判断するのは科学的根拠がなく、心理的な負担や人間関係のトラブルを引き起こすこともあります。

血液型は医療上の大切な情報ですが、性格や人柄を決めるものではありません。正しい知識を持ち、お互いを尊重する意識が大切です。

## 1年の始まりの「健康」について

「健康」の定義として世界保健機関（WHO）の「肉体的にも、精神的にも、社会的にもすべてが満たされた状態」はご存知だと思います。人生100年時代、よりよい人生を送るために「健康」であることは重要です。しかし「健康」であることが人生の目的ではありません。「健康」であることを資源として、楽しく、幸せな気持ちを感じて生きていくことが大切だと思います。次のことを考えてみましょう。

- ① 今までどんな時に「健康だな」「幸せだな」と感じましたか？
- ② この気持ちを維持するためにできることや必要なことは何ですか？

この質問に対する答えが皆様のよりよい人生に必要なことです。「美味しく食べる」ために歯周病予防をすること、「行きたい場所へいつでも行く」ために身体活動を増やして筋力を維持するこ

保健師 山崎真由美  
と、「他の人に自分を理解してもらう」ために人との関わりを持ち続けること、などなど。このような活動が続けるために必要なのが「健康」であり、活動の結果もさらなる「健康」につながっていきます。

2026年が始まりました。新年の清々しい空気を深呼吸して、明るい太陽の光を浴びてください。少しでも幸せな気持ちになるとと思います。この1年、皆様が楽しく健やかに過ごせますように。

### ◆◆◆◆ 医師異動の紹介 ◆◆◆◆

診療科	氏 名	異 動 日
総合内科	石 田 真知子	退職（2025.12.31）
	桐 花 玲 奈	退職（2025.12.31）
	内 山 絢 登	採用（2026.1.1）
循環器内科	塚 田 亮 羽	採用（2025.12.1）
消化器内科	安 東 敬 仁	採用（2026.1.1）
小 児 科	児 玉 達 弘	退職（2025.12.31）